

令和7年度 第2回住民自治協議会連絡会 議事概要

1. 日時：2025年（令和7年）10月3日（金） 10:00～11:30

2. 場所：市役所5階第3会議室

3. 出席者：沼間小学校区住民自治協議会（曾志、江連）

小坪小学校区住民自治協議会（豊角、吉田、宮川）

池子小学校区住民自治協議会（斎藤、齊藤、青野）

久木小学校区住民自治協議会（山崎、石井、森戸）

※敬称略

防災安全課（鈴木暁課長、相澤隆課長補佐）

国保健康課（小上馬雅行課長、青山恭子副主幹）

地域担当職員リーダー（西海隆総務部次長、三澤正大環境都市部次長、堀田昌希福祉部次長、雲林隆継教育部次長）

市民協働部（岩佐正朗部長、栗原達也次長、小野田和幸係長）

4. 議事

（1）大規模災害時における医療救護所について

（2）各住民自治協議会の活動に関する意見交換

（3）その他

5. 概要

議事（1）大規模災害時における医療救護所について

（防災安全課）

- ・前回に引き続き、医療救護所の集約について再度説明。
- ・トリアージに関しては地域住民が行うこととは想定していない。
- ・応急手当など共助の担い手となる自主防災組織や避難所運営委員会に対しても、先日ご説明させていただいた。
- ・自主防災組織を育成・強化すべく、まもなく活動マニュアルを配布する予定だが、その中でも応急手当の必要性について記述している。

（沼間）

- ・医療資源について、有事の際は一定理解するが、通常時、小学校の医療体制の充実はどのように考えているのか。

- ・医療救護所への搬送体制、情報伝達体制など市民目線で考える必要がある。
- ・災害時は自宅避難が圧倒的に多い。避難所に来ない自宅避難者が想定されていない。
- ・令和2年に作成された「逗子市地域防災計画」が策定されているが、すでに5年経過している。どのように活かされているのかが不明である。

(小坪)

- ・医療リソースを集約することで、命が救われることは理解する。
- ・平時は情報収集などある程度は容易に入手できるが、緊急時は情報も時間もない。医療救護所がトリアージするのであれば、情報が殺到し、対応できないと想定される。地域での市民目線のトリアージが必要と考える。

(国保健康課)

- ・市民目線は必要と考える。医療救護所に行くべきか迷うときは、平時に医療機関に行くのと同じように医療救護所に行ってほしい。

(小坪)

- ・医療救護所に医療リソースを集約させるのであれば、とりこぼしが増えることが予想される。それを救う算段を検討してほしい。
- ・自主防災組織にレクチャーすることも理解したが、センペルを含め、医療救護所を2カ所にするなど対応の検討をお願いする。

(久木)

- ・医療救護所を作るにあたって関連死の対応が想定されていない。またオンラインでつなげるなどの手段が考えられていない。
- ・自主防災組織のマニュアルもマニュアルだけでなく、講習も必要である。自治会構成員も減ってきており、実情から、全体を救うためにどうするかを考える必要がある。

(防災安全課)

- ・自主防災組織の育成に関してはマニュアル配布だけでなく、講習を含め考えている。ハード面、ソフト面に関してもどのような方策がよいか考えていきたい。

(国保健康課)

- ・医療救護所には命をつなぐ応急処置を行い、災害拠点病院災害病院につなげる役割を想定している。現状の体制である小学校での医療救護所は医療設備もないことから、命をつなぐ応急処置は難しい、これからは医療センターにて命を繋ぐ処置を行うことを想定している。

(小坪)

- ・医療救護所に搬送する方法が練られていない。搬送体制を自主防災組織に考えてくださいというお願いなら一定理解するが、医療救護所まで来れば治療するとはおかしいのではないか。

(沼間)

- ・医療のリソースを確保するために効率的に行いたいは分かるが、重体なのかどうなのかを判断するトリアージを小学校区の医療救護所で行えばよいのではないか。そこでトリアージを行い、重度と思われるものは医療センターの医療救護所へ運ぶという流れでよいのではないか。

(小坪)

- ・災害拠点病院には直接行っていいのか。医療救護所を通さなければなければならないのか。

(国保健康課)

- ・災害拠点病院は災害時、災害対応体制となるので、平時のような診療を受け付けない。

(久木)

- ・逗子に総合病院がないのがまず問題である。土・日・祝、夜中の緊急時に医療救護所は対応できるのか。そのような体制も練る必要がある。

(国保健康課)

- ・医療センターは通常時は休日夜間診療所として開設している。緊急時は医師が参集して開設する想定である。

(小坪)

- ・逗子市に住んでない医師も多いと聞いている。緊急時の参集ができるのかは不安である。

(市民協働部長)

- ・医療救護所開設時の各住民協の関わり方を検討し、お示しする。

議事（2）各住民自治協議会の活動に関する意見交換

(池子)

- ・防災部会にて防災講座を行っている。自主防災組織の実情についての話題が多かった。また避難所のマップ、情報交換、大規模災害、水害などの話を共有した。
- ・先日池子のお祭りがあり、住民協としても参加した。子どもたちにお菓子のつかみ取りを

行い子どもが 320 人くらい集まり盛況であった。

- ・空き家、草木の問題がある注意場所を地図とマーカーで調査し、「お困りごと地図」として共有できるよう活動している。

(久木)

- ・12/1 に住民協特別号発行できるよう編集作業に取り掛かっている。今回の特別号は住民協にスポットを当て、設立の歴史や活動実績、今後についてなどの掲載を考えている。
- ・今年度の防災訓練は災害用トイレを自主財源で購入して実施しようと考えている。また災害時には水が重要となるので、防災関係の井戸、市が把握している井戸以外を調査している。
- ・減災、崖地の調査について 4 年ほど前に市に申請したが連絡がない。もう一度全地区を調査してほしい要望を市に上げようと考えている。

(沼間)

- ・代表者会議で各地区の情報共有を行っているが、防災に関して、グリーンヒル自治会に黄色い手ぬぐいの試みを紹介したところ、桜山 4 丁目、沼間 3 丁目も同じことを始めている。自治会同士の情報共有で広がっている。
- ・~~緊急~~ 指定緊急避難場所の災害時での体制を進めている。沼間小学校区の自治会館のマニュアルと一緒に検討している。また福祉避難場所、杜の郷、えいむもあるので連携していく。
- ・防災に関するグループワークを行い、要支援者名簿、自主防災組織の実情、発災当時など幼稚園、保育園、在宅避難を含めて発災時に地域住民の手伝いが必要なことを情報収集している。
- ・防災について。防災安全部会、避難所運営委員会、自主防災組織の連携が十分でない。情報の共有方法など自分たちでできることを考えていきたい。

(小坪)

- ・青少年健全育成の会や PTA などから災害時に小坪小学校避難所開設がある際に、小学校の鍵をあけてほしいとの要望があった。鍵の保管も含め市と相談している。
- ・小坪小学校の体育館もクーラーがない。各学校設置すべきと考える。
- ・先日の津波警報、大雨警報があったが、市からの広報、防災メールがほとんどない。災害情報の発信は必要である。手が足りないのであれば、市民から情報をを集め、その情報を発信するなどの方策も検討してほしい。

議事（3）その他

- ・特になし

閉会

(市民協働課)

- ・次回の連絡会は通常であれば11月最終週の金曜日であるが、議会中の可能性もあり、前週の平日に行おうと考えている。早めに皆さまにお示しできればと考えている。